



Mitsutaka Hamada



Kenzen Takeuchi



Ikuhiro Inagaki



Shinfuku Nomura



Naoki Kanazawa



Masaaki Kumagai



Takeshi Kawano



Kenji Numata



Kaito Tokushige



Takahiro Shinkai



Takahiro Kagawa



Shinichi Sobue



Yui Chiba



Tatsuo Shinbo



Kazumichi Kuzawa



Harukazu Okuda



Yoshinori Hashimoto



Tomohisa Hosoda



Satoru Ieta



Yasuteru Shimamura

技科大の顔

05

2024年 秋号

同窓会と以下の在学生が協力し、制作・配信しています

機械工学系 代田 智教
電気・電子情報工学系 内藤 初月
情報・知能工学系 梶浦 真帆
建築・都市システム工学系 末廣 杏月



濱田 光誉

Mitsutaka Hamada

2012年 機械システム工学専攻 修士
鈴木新一 研究室

1986年 高知県生まれ
高知東工業高等学校 卒業

2012年 シロキ工業株式会社 入社
2023年 アイシンシロキ株式会社(社名変更)
2024年 トヨタ紡織株式会社 転籍
現在に至る

私は今、ロボットコンテストの世界大会に出場するロボコン同好会の応援のため、ベトナムの首都ハノイにきています。ホテルでこの原稿を書いているかもしれませんが、同期の皆さんは「まだロボコン？変わらないねえ!」と思っているかもしれません。振り返れば、私は決して褒められる学生ではなく、色々とサボっていましたが、ロボコン「だけは」真剣に取り組んでいました。そのおかげか、同期の皆さんにはよく助けてもらったように思います。この場を借りて、改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

そんな私なので、就職活動もサボっていました。修士2年の夏に差し掛かった頃、同期のKくんが突然訪ねてきて、「就活が終わっていないのは、俺とハマちゃんだけらしいぞ!今から就職担当の先生のところに行くぞ」と叱咤激励してくれました。彼のおかげで無事に就職が決まりました。ふとしたときにこの出来事を思い出し、彼に感謝しながら、同期の大切さをしみじみと感じます。

そんな私を拾ってくれた奇々な会社では、自動車のシート機構部品の生産技術を担当しています。会社のお金で何億もかけて製造ラインを作ることは大きなプレッシャーですが、その分達成感もあります。生産技術の仕事にはロボコンと通じる部分が多く、まるでロボコンの延長のような感覚で楽しく働いています。一方で、自動車業界は国際競争が激化し、業界再編も進んでいます。気がつけば会社の名前が変わり、転籍も経験しました。自分ではどうにもならない変化に対して割り切ろうとは思いますが、やはり心の中ではモヤモヤすることもあります。それでも、ロボコンの後輩たちの活躍を見るたび、自分も頑張らなければと感じる日々を過ごしています。



稲垣 育宏

Ikuhiro Inagaki

1988年 生産システム工学専攻 修士
小林俊郎 研究室

1963年 岡山県生まれ
津山高専 卒業

1988年 住友金属工業(株) 入所
2012年 新日鐵住金(株) 産機品製造部長
2019年 日本製鉄(株) 上席主幹
現在 日鉄関西マシニング(株) 取締役

私が豊橋技科大に入学して良かったこと、3選報告したいと思います。1つ目は、何と言っても妻と出会えたことですかね(笑)。技科大の軽音楽部と近隣の会社の合同の催し企画の際に、お互いが幹事になったのがきっかけで、運命的な出会いになりました。2つ目は、先生も含めたネットワークです。今でも各方面の方にお話になっており、大変ありがたく感じています。軽音楽つながりのバンド活動も継続しています。大学時代だけではなく、人脈は財産になりますので、いろいろな分野の方とコンタクトしたことはとても大切だったと思います。そして3つ目は、技科大で習得したことです。社会人になって気づきましたが、学会等で発表させて頂いた機会は、他の大学よりも圧倒的に多いようで、大変有益でした。会社では、自分のやっていること、やりたいことを、如何に社内関係者あるいはユーザーに理解してもらえるかが勝負なのですが、そのためには分かり易く起承転結のある資料と、プレゼンテーション能力が極めて重要だと痛感しています。当時はエクセルやパワーポイントなんていうものは無く、グラフひとつにしても、ロットリングペンと雲形定規と修正液で作成し(汗)、とても時間がかかりましたが、何とか学会で発表できた時は充実感がありました。こういった経験をさせて頂いた先生には心より感謝しております。在学中の皆さんには、対外発表などの機会があれば是非経験して頂ければと思います。そう言えば、伊良湖岬の大アサリは今でも健在でしょうか。豊橋は、ちょっと風は強いですが、衣食住を考えると、とても良いところでした。入って、「経験してなんぼ」のところが大きいと思いますが、私の人格形成の一部が豊橋と技科大でした。また寄らせて頂きたいと思います!



竹内 謙善

Kenzen Takeuchi

2002年 機械・構造システム工学専攻 修士
畔上秀幸 研究室

1975年 香川県生まれ
高松高専 卒業

2002年 株式会社くいと 入社
2019年 香川大学 創造工学部 非常勤職員
現在 香川大学 創造工学部 講師

技科大では、当時一番人気だった畔上先生の研究室に幸運にも入る事ができて、博士後期課程までお世話になりました。そこで学んだことが、企業でソフトウェア開発をやっていた時にも、大学教員になった現在でも大変役立っています。

もともと高専時代からプログラミングと有限要素法に興味を持っていましたが、研究室では形状最適化や脊柱側彎症という背骨の病気をテーマに、思う存分、プログラミングと有限要素法を学ぶことができました。そこで学んだ有限要素法の知識と形状最適化のノウハウを生かそうと東京のソフトウェア会社に就職しました。企業に入ってから畔上先生には何かとお世話になりながら、世界的にもユニークな形状最適化機能を持つ有限要素解析ソフトウェアをリリースすることができました。企業を退職して故郷の香川県に戻って来てから、いろいろとご縁がありまして、現在は香川大学の教員をやっております。

この数十年でコンピューターは大きく進化しました。私の講義の中で学生にいつも伝えていることですが、私が学生だった頃のパソコンと現在のパソコンでは、私の実感で10億倍の性能差があります。これが、ものづくりに関するあらゆる分野に大きな変化をもたらしてきましたし、今後もこのような変化が続くことでしょう。変化の激しい時代には、表面的な知識はすぐに陳腐化して役に立たなくなります。私が技科大で学んだことの中で今でも役立っているものは、より普遍的な「考え方」です。技科大の学生の皆様には是非、陳腐化しない「考え方」を身に付けて頂けたらと思います。



野村 信福

Shinfuku Nomura

1993年 総合エネルギー工学専攻 修士
中川勝文 研究室

1964年 福井県生まれ
石川高専 卒業

1994年 愛媛大学工学部 助手
2007年 愛媛大学大学院理工学研究科 教授
2021年 一般社団法人「えひめベンチャー支援機構」
代表理事 兼任
2024年 愛媛大学 副学長
現在に至る

技科大在学時はいわゆるバブル全盛期、1985年に学園祭を盛り上げようと、有志で立ち上げた「プロレス同好会:通称TUTプロレス」は、人気を博し、学内外で引っ張りだこ状態だった。昭和から平成に変わったときも豊橋だった。大学院卒の初任給は20万円を優に超え、経済大国と言われるほどになっていた。1991年公開の映画「ゴジラVSキングギドラ」では、23世紀に世界中の土地を買い占めた日本が超大国となり、それを阻止するために、未来人が20世紀に日本を破壊するために怪獣を送り込んで歴史を変えようとする話であった。日本円が強く、当時、愛知大学前にあった1杯1ドルのラーメン店が潰れてしまったことを覚えている。在学時に博士後期課程ができて、アカデミアの世界でも活躍できる土壌が整い、未来には希望しかなかった。まさか、その後に失われた30年と呼ばれる時代に突入していくことになるとは想像できなかった。そうしてしまった原因は我々大人にあります。

博士の学位を取得後に四国の愛媛大学に移り、研究を進める傍らで、2003年から「航空力学研究会」の顧問として、琵琶湖で開催される鳥人間コンテストに学生らと挑戦し、人力飛行機に魅了されてきた。2020年からは学生起業塾を立ち上げ、アントレプレナーシップ教育に力を入れている。2024年、「ロボコン」で技科大が三連覇したテレビを見て熱くなった。これぞ技科大イズム!ロボコンの道を切り開いた高専生からの技科大生らがファーストベンギンとなって、社会にインパクトを与え、夢をかなえ、起業・副業が普通の時代となったその先に、バブル崩壊から60年後の輝かしい未来が待っていると確信している。その時、未来人は何を送り込んでくるのだろうか。



金澤 直輝

Naoki Kanazawa

2017年 電気・電子情報工学専攻 修了
井上光輝 研究室

1989年 山口県生まれ
神戸市立高専 卒業

2017年 日本アイ・ピー・エム株式会社
東京基礎研究所 入社

現 在 Research Scientist

私は2010年に神戸高専を卒業し、技科大に入学しました。井上光輝先生がとても楽しそうに量子力学の講義をされていた姿に惹かれ、学部四年の時にスピノ・エレクトロニクスグループの門を叩きました。その後は、多くの縁と教育プログラムにも恵まれ、リーディング大学院の一期生として学位を修めました。また、テラーメイドプログラムの支援によりミュンヘン工大の物理学科へ留学し、そこで過ごした日々も貴重なものでした。工学一辺倒、井の中の蛙となっていた当時の価値観は大きく変わりました。思い返せば、技科大での7年間はものごとを考えるきっかけを多く与えてくれました。

こうした機会に恵まれつつも、自分なりに工学という分野を修めたと感じられたのは就職してからだったように思います。IBMの研究所はグローバルに展開しています。コロナ禍を機に仕事のオンライン化が進み、国境を越えて集った優秀な同僚から仕事の仕方を学び、私自身がプロジェクトをリードする機会もありました。画期的な実験プロトコルの概念実証も、プロダクトとして実装するには地道なエンジニアリングが必要です。知識や技術だけではエンジニアの仕事はできず、それらを活用するデザイン力も併せて求められます。「技術を究め、技術を創る」の思想は、この大切さを最初から教えてくれたように思います。

いま私は最先端の量子コンピュータの制御ソフトウェアの開発に携わっています。あの量子力学の授業から早十数年、懐かしい技科大の教室に思いを馳せながら、量子計算が社会に普及する将来に向けて、日々邁進しています。



河野 剛士

Takeshi Kawano

2004年 電気・電子工学専攻 修了
集積回路・センサシステムグループ研究室(ICG)
石田誠・澤田 和明 研究室

1976年 山口県生まれ
宇部高専 卒業

2004年 豊橋技術科学大学 工学部 博士研究員
2005年 カリフォルニア大学バークレー校 博士研究員
2007年 豊橋技術科学大学 工学部 助教
2010年 豊橋技術科学大学 工学研究科 准教授
2022年 豊橋技術科学大学エレクトロニクス先端融合研究所 教授
同 年 名古屋大学 客員教授・コンソビア大学 客員教授
現 在 豊橋技術科学大学 次世代半導体・センサ科学研究所 教授

宇部高専を卒業後、本学の電気・電子工学課程に編入学しました。最初は授業に慣れない時期もありましたが、4年次には希望していた研究室(集積回路・センサシステムグループ、ICG)に入ることができました。半導体が面白いと思ったのもこの頃だったと思います。もともと学部4年で就職の予定でしたが、修士課程に行くことにしました。修士では就職活動をあまりせず、研究をしていたかと思えます。実験室に泊まり込むこともありました。指導教員の石田誠先生からは博士課程への進学を勧められましたが、修士卒での就職を希望していました。しかし、当時の就職担当の先生に希望の企業を伝えたところ「その枠は他系に渡した」、「博士に行こう」と言われ、握手の手が出てきてつい握ってしまったのを今でも鮮明に覚えています。

博士課程でも続けて、半導体結晶成長、集積回路技術に取り組み、そして生体応用(ニューロン計測)にまで踏み込むことができ、2004年3月に博士(工学)号を取得しました。一年間の博士研究員の後、半導体技術の発展的な分野であるMEMS研究のためにUCバークレー校に行きました。ここでの2年間は、研究だけでなくいろいろな人との繋がりも含め貴重な経験ができました。当初この後は企業就職を考えていましたが、大学での自由な研究スタイルも良いかなど感じ始めた頃、幸い本学の助教として声をかけていただき、現在は次世代半導体・センサ科学研究所に所属しています。昨年度までにはコンソビア大学メディカルセンターで脳研究も行いました。現在では、これらを統合して、半導体技術の脳計測や脳治療応用への可能性に向け、研究室メンバーや共同研究者、また本学のサポートを得ながら日々研究を進めています。



熊谷 正章

Masaaki Kumagai

2002年 電気電子工学専攻 修了
井上光輝 研究室

1978年 愛知県生まれ
豊橋南高等学校 卒業

2002年 アイ工業株式会社 入社
同 年 R&Dセンター 配属

2017年 R&Dセンター 電子材料開発グループ長

2023年 R&Dセンター内にモビリティ素材開発室を設立
現 在 同社 モビリティ素材開発室長
一般社団法人加飾技術研究会理事を務める

1978年、豊橋にある小さい街の電気屋さんで生を受け、幼い時から電気系統の英才教育を受けてきた私が豊橋技術科学大学の電気電子工学に進むのは自然なことでした。物理学、電磁気学が大好きな反面、化学が大嫌いであったため化学系の単位は全く選択しなかったのを思い出します。そんな私が何か縁あって化学メーカーであるアイカ工業に入社したのが2002年の春。入社式から遅刻して社長が挨拶している最中にコンコンと入室したのも今思えば良い思い出です。

配属先は所謂研究所であるR&Dセンターで、化学製品の材料開発を担当するのですが、当然ながら当初は全く知識が追いつかず、同期はみな化学系出身のためすっかり落ちこぼれグループに入ってしまった。ですが途中R&Dセンター内の新規事業開発的な部署へ異動となり、持ち前のコミュニケーション能力を発揮し、ある程度の成果を出すことが出来ました。その後R&Dセンターの他、事業部の開発部門、兵庫県への単身赴任等いろいろ経験させてもらいながら、開発部門のマネージャーとして若い技術者とともに楽しい日々を過ごしております。また2023年10月にはモビリティ素材開発室を設立し、初代室長を拝命しております。当社としては未知の領域であるモビリティ分野へ、世の中に無い新しい素材を提供する活動をしております。そんな業務にも絡み、一般社団法人加飾技術研究会の理事としても活動し、利害関係を超えた業界全体の発展に尽力しております。

振り返ってみれば、化学と素人の私が(今でもそうですが)化学系材料メーカー開発者として生きてこれたのは、社内外を巻き込んで味方を多く創造できる能力の賜物であると自負しております。在学の皆様につきましても、研究に没頭するのも良いですが、遊びにバイトに精一杯活躍するのを期待しております。



沼田 健二

Kenji Numata

1982年 電気・電子工学専攻 修了
安田幸夫 研究室

1958年 福島県生まれ
福島高専 卒業

1982年 東京芝浦電気株式会社 総合研究所 入所
2013年 東芝メモリシステムズ株式会社
メモリ統括部 統括部長

2018年 株式会社三菱ケミカルリサーチ シニアコンサルタント
2021年 株式会社三菱ケミカルリサーチを退職
現 在 調査・コンサルティング関連の自営業

技科大には、3年次編入の1期生で情報工学課程に所属し、修士の2年間は将来の半導体開発を目指して電気・電子工学系電子デバイス大講座に所属していました。修了後に東京芝浦電気株式会社(現在の株式会社東芝)で、微細デバイスやメモリ集積回路設計技術の研究や製品開発に携わりました。時は、日本の半導体製品が右肩上がりで飛躍している時代にデバイスや設計技術開発を通して、メモリやシステムLSI等のあらゆる分野の業務に携わることができました。そしてその興隆に少しは貢献できたと思っています。時代も良く、運も良かったとも思います。しかし、ここ十数年、日本の半導体を取り巻く事業環境は大きな変革の時期でもありました。半導体の水平分業という業態の変化で、日本の半導体の立ち位置も大きく様変わりした時代です。そんな時代変遷を感じて、ビジネス経験のために新規事業開拓という部署への異動を志願した事もありました。開発から事業経験と言う観点では、良い経験になりました。東芝退職後の東芝メモリシステムズと言う不揮発性メモリの会社では、かつて東芝時代のメモリとシステムLSI開発の経験を活かして、主導する立場で頑張りました。そして三菱ケミカルリサーチと言う会社では、今の自営業の基となる電子・情報系の調査・コンサルティングのスキルを身に付けさせて頂きました。

振り返って見ると、自分が切り開いてきたと言うよりは、技科大での学びと先を見る研究の御指導を頂いた事が大きかったと思います。人間万事塞翁が馬と言う言葉もありますが、苦しい時でも今を嘆かず、精一杯の気持ちで続けられたからだと思います。後輩へのメッセージとしては、「一喜一憂せずに、先の光明を信じて諦めなければ必ず良い事が有る筈」ということです。



徳重 海都

Kaito Tokushige

2022年 情報・知能工学専攻 修了
金澤靖 研究室

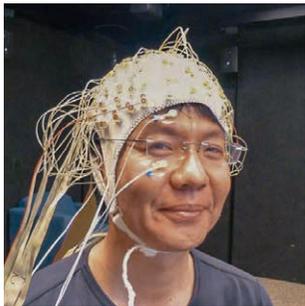
1997年 香川県生まれ
香川高専 卒業

2022年 ダイキン工業株式会社入社 入社
現在 同社 クラウドエンジニア

2018年、香川高専から技科大に編入し、多くの友人と出会い、勉学に励んでいたことをつい最近のことのように思います。技科大では、機械学習を用いた画像処理について研究をしていました。この研究をすることになる理由は成り行きではなく、高専入学前からの明確な理由がありました。エンジニアとして働く両親の影響で、プログラムと画像処理が流行することは高専入学前からある程度理解ができていました。私は浅はかながら、好奇心からその領域に飛び込みたいと考えようになりました。思い描いていた分野への道を進んだ学生時代の経験は、今の私の思想に大きな影響を与え、異なる分野へのさらなる挑戦の機会を与えてくれました。

現在はダイキン工業株式会社でクラウドサービスの開発/運用をしています。クラウドエンジニアは開発に注目が集まりますが、24時間365日サービスを止めることなく稼働させることも困難で重要な任務です。大学時代の研究とは少し異なる分野ですが、実装した機械学習モデルをユーザに届けるためにはサービスの構築が必要と感じたことがこの分野への挑戦のきっかけでした。

在学生の皆様は学業や研究に取り組み、忙しい日々を過ごす中でも多くのことを吸収する毎日を過ごされていることと思います。その中でも、是非小さなことでも新しいことに率先して挑戦していただきたいです。私自身、学生時代に学内外で多くの活動をしてきましたが、その中で得られたものは社会人になった今でも活かすことができていると感じています。最後になりますが、限りのある学生生活ですが、技科大で学ぶことができ良かったと思えるように勉強だけでなく趣味や友人との思い出など今しかできないことに取り組んでほしいと思います。



香川 高弘

Takahiro Kagawa

2006年 電子・情報工学専攻 満期退学
宇野洋二 研究室

1978年 神奈川県生まれ
詫間電波高専 卒業

2006年 慶應義塾大学 生命情報学科 助手
2007年 名古屋大学 機械理工学専攻 助教
2017年 愛知工業大学 機械学科 准教授
現在 同上 教授

豊橋技術科学大学での博士後期課程までの7年間を振り返ると、学部では授業漬けで大学院では研究漬けの日々で、よく心折れずにできたなと思います。いや、正確には何度かへし折られていますが、それでもがんばれたのは友人達や先生方のおかげと思っています。この場をお借りして感謝申し上げます。

現在、私は愛知工業大学で教員として働いています。修士の時から障がいの歩行アシストの研究を20年以上続けています。これまで目の前の課題に取り組むように仕事をしてきましたが、定年まで残り20年という折り返し地点まで来て、ふと大きな目標がないことに気づきました。そこで、今取り組んでいるアシストロボットを定年までに実用化することを目標にして、大学の外に向けた仕事にも取り組み始めています。具体的には、リハビリと看護の分野の先生方との共同研究や、企業との連携についても模索しています。

在学生の皆さんは、学業・研究に忙しい日々を送られていると思いますが、中にはがんばってもなかなかうまくいかない問題に直面している人もいるかもしれません。特に研究では、がんばっても徒労に終わることの方が多いです。失敗した時のことを考えると、努力する気が起きなくなるかもしれません。しかし、徒労に終わるリスクがあっても努力することには大きな価値があります。努力によって培われる試行錯誤の経験は、また同じような状況に直面した時の問題解決の道標となります。また、失敗を恐れず努力できる力を認めてくれる人がいます。ぜひ、学生のうちに失敗や試行錯誤を通して技術者・研究者となるためのスキルを磨いてください。在校生の皆さんのご健勝と豊橋技術科学大学の益々のご発展を願っております。



新海 崇紘

Takahiro Shinkai

2016年 情報・知能工学専攻 修了
中内茂樹 研究室

1991年 北海道生まれ
苫小牧高専 卒業

2016年 ソフトバンク株式会社 入社
現在 同上 ICTオペレーション本部
Smart Operation推進室 所属

苫小牧高専では、当時としては珍しかった脳波を使った研究テーマがあり、第1希望で立候補しました。研究報告会では、脳波を使ったデモンストレーションを披露し、まるでヒトとITが融合したような感覚にワクワクしたことを今でも覚えています。研究生活は非常に楽しく、北崎先生のご紹介もあって、類似テーマの研究を継続できる豊橋技科大への進学を即決しました。最終的には中内研究室に入ることができ、南先生を筆頭に脳科学を専攻し、ワクワクする日々とともに貴重な学びを得ることができました。

この学びを活かして、ソフトバンク株式会社に新卒で入社し、またまた日々ワクワクしながら業務に取り組んでいます。現在は法人顧客向けの全ての保守運用業務に対して、守りのDXとして業務改革を推進しています。特に昨今では生成AIなどの技術進歩が目覚ましく、弊社もスピード感を持って新しい技術に取り組んでいますが、これらの新技術を取り入れ、業務改革を進めるために日々最新の情報をキャッチアップする必要があり、その過程で学ぶことは非常に楽しく、やりがいを感じています。

技術の発展には驚きを隠せませんが、大学で専攻して得た知識を活かす機会がこれからさらに増えると感じると、未来に対する期待がますます膨らんでいます。特に、脳科学の知見が生成AIや他の先端技術とどのように交わっていくかを考えると、私の中で新たな挑戦の機会が広がっているように思います。

このように日々の業務でワクワクしながら仕事に取り組めるのも、大学で得た基礎的な知識や探究心が大きく関与していると感じており、豊橋技術科学大学での学びに改めて感謝しています。今後も、後輩の皆様にはこの貴重な環境で多くを学び、多様な分野でワクワク感を信じて挑戦して欲しいと思います。



祖父江 真一

Shinichi Sobue

1989年 情報工学専攻 修了
斎藤利海 研究室

1965年 愛知県生まれ
岐阜高専 卒業

1989年 宇宙開発事業団(現 宇宙航空研究開発機構) 入社
同年 地球観測センター 勤務
2017年 陸域観測技術衛星2号(だいち2号,ALOS-2) プロジェクトマネージャ
2021年 ALOS-2ミッションマネージャ 技術領域上席
現在に至る

1989年に公務員試験を受け、宇宙開発事業団に入社しました。入社後は、衛星の地上システムの整備・運用、NASAの2年間長期出張ならびに月周回衛星SELENE(かぐや)の開発・運用などに携わってきました。2017年からは地球を観測する衛星ALOS-2(だいち2号)の運用責任者をしています。このALOS-2は、レーダを使うので、昼夜や天候に関係なく地表面の観測を行え、2024年1月の能登半島地震などでの地表の隆起などをつまびらかにしてくれています。これまでの社会人人生は、プロジェクトマネージメント(PM)とシステムエンジニアリング(SE)につきています。ユーザーニーズに基づくシステム要件を定義、システムを開発・運用し、利用を推定するためのマネージメントをしていく。技科大の同級生・先輩たちのご厚意で母校をはじめ高専の後輩たちに講演をさせていただくときには、SE、PMというキーワードと高専および技科大の実践的な教育がそのためにどれほど役にやっているかを認識してほしいというのを伝えるようにしています。動かしてなんぼ、役に立ってなんぼという理念も忘れないようにしてもらいたいと思っています。また、個人的には、高専から技科大まで続けたクラリネット演奏を子供たちが手を離れてから30年ぶりに市民バンドで再開しました。まだまだ、うまくなる余地があることを認識しています。仕事と趣味、忙しく大変ですが、多様な価値を享受できるので、自らの幸福度をみなさまにも仕事以外の何かを持ちづけていただけるとよいと思っております。高専や大学での吹奏楽のOB合演などで諸先輩や後輩にお会いできるのを楽しみにしています。





千葉 唯

Yui Chiba

2011年 エコロジー工学専攻 修了
大門裕之 研究室

1986年 東京都生まれ
東京高専 卒業

2011年 株式会社オリエンタルランド 入社
現在 同社 経営戦略本部 リゾート開発部
兼務 技術本部 技術管理部

オリエンタルランドに総合職として入社した私は、現場のスーパーバイザーやマーケティングリサーチなど様々な部門を経て、現在は東京ディズニーリゾートのアトラクションやエリア、従業員向け建屋の改修等、リゾート全般の施設開発に関わるプロジェクトマネジメントを行っています。そして2年程前から兼務という形で全社の気候変動対策を推進する組織の事務局をしており、従業員意識啓発のような草の根活動から、関係組織の目標進捗管理、環境配慮技術の導入など、多岐にわたる業務に携わるようになりました。そんな私の専門は、高専では情報、技科大では環境、今は「夢・感動・喜び・やすらぎ」です。その時々自分の想いに正直に（でも真剣に）生きてきた結果、全く一貫性の無い経歴ではありますが、今日まで楽しく社会人をやっています。

夢や感動は、日常生活における心の支えであり、他者への思いやりを生み出す原動力になると思っています。科学技術と思いやりの連鎖で、未来を生きる人々にもたくさんの夢や感動がありますように、そのために私はこれからも働くつもりです。しかし、気候変動のような地球規模の課題に向き合うためには、一個人、一企業など、一単位でできることは本当に限られます。苦しみながら強制的に、ではなく、仕事の喜びややりがいを存分に感じながら、みんなで社会をより良いものにして行けたらいいなと思っています。私個人は本当に無力に等しいですが、今回このような機会を頂きましたので、皆様との素敵なお縁に密かに期待しています！

最後に、在校生の皆さんへ。学生生活を存分に謳歌してくださいね！そして社会人になってからが本番、共に夢を叶えていきましょう！



九澤 和充

Kazumichi Kuzawa

2000年 エコロジー工学専攻 修了
木曾祥秋 研究室

1975年 愛知県生まれ
豊田高専 卒業

2000年 中日本建設コンサルタント株式会社 入社
2001年 豊橋技術科学大学
環境・生命工学専攻 入学

2009年 株式会社創環 設立
現在 株式会社創環 代表取締役

1996年にエコロジー工学系の二期生として豊田高専の土木工学科から3年次へ編入学し、技科大を修了後は中日本建設コンサルタント株式会社に入社しました。2001年12月には再び大学に戻り、博士後期課程環境・生命工学専攻にて博士号を取得しました。2009年には株式会社創環を設立し、今年で16期目を迎えています。現在は地質調査、地盤改良および杭打ちを中心とした建設業に携わっています。

自ら選択し進んできた道ですが、思い返してみると必ずしも効率的な人生ではなかったようにも思えます。高専では土木を学び、大学では環境工学を専攻して修了後は建設コンサルタントへ、その後は再び大学に戻り現在は土木・建築を専門とした会社を経営しています。また、現在の会社も元々は環境関連の事業を行いたく立ち上げたのですが、いつの間にか建設業が中心となっています。一見無駄が多いように見える過去の道のりですが、高専時代に学んだ土木工学（卒業研究は土質関連の研究室でした）は現在の生業に大きく関わっていますし、大学時代に勉強した化学の知識も真剣に打ち込んだ水処理の研究も会社で取組中である新規事業に役立っています。

もちろん学生時代に取り組んだことがその後の人生において直接的に役立つ事は稀であると思いますが、身につけてきた知識を含む考え方やもの捉え方、人との関わり方など、いつどこでどのような経験が生きてくるのかは無限の可能性があると思います。

在学生の皆様、人生に無駄なことはありませんので様々な事に挑戦し、ぜひ素晴らしい学生生活を満喫してください。



新保 達雄

Tatsuo Shinbo

2007年 エコロジー工学専攻 修了
藤江幸一・後藤尚弘・大門裕之 研究室

1981年 新潟県生まれ
愛知県立豊丘高等学校 卒業

2007年 トピー工業株式会社 マイカ部
2016年 スズキ株式会社
塗装・樹脂成型生産部 塗装課
現在に至る

私は中学時代に移り住んだ豊橋の普通科高校を卒業後、本学に入學し、修士課程の修了まで6年間通いました。大学4年生から所属した研究室は30名近い大所帯で、恩師・先輩・同期・後輩方と毎日朝から晩まで過ごした日々は、今思い返してみても、本当に楽しく充実した掛け替えのない青春の思い出です。

在学中は主に環境負荷低減・廃棄物再資源化に関する研究をしており、卒業後は鉄をリサイクルしている地元企業に就職しました。配属先は残念ながら希望していた主力部門ではなく、化粧品や塗料用の顔料を製造する小さな部署でした。ところが、規模は小さいものの複数の工場を構え、営業・開発・生産を少人数で対応しており、勢いがありました。配属3年目には開発品の量産化に向けた合理化メンバーに選出されました。初めは当然分からないことだらけでしたが、計画・設計・手配・工事・試運転・製造開始まで、1から工場を作り上げる経験は、非常に有難く、遣り甲斐に溢れ、大きな学びとなりました。

その後、より大規模なものづくりの場に携わりたいと思い、当時業種を問わず生産技術の経験者を求めている自動車業界に応募した結果、ニーズがマッチして塗装部門で採用され、今に至ります。思った以上に大変なことは多いものの、街で自分が携わった車両を見かけると嬉しくなり、日々遣り甲斐と誇りを持って仕事をしています。また、休日は妻や子供と楽しく過ごしております。

在学生の皆さんも将来自分の希望とは違った配属や挫折など味わうかも知れませんが、そんな時は落ち込んだりせず、是非前向きに取り組んでみてください。いつか必ずチャンスや思ってもみなかった新たな選択肢に迫られます。その際に、悔いのない自分らしい決断ができるよう、陰ながら応援しています。



奥田 治和

Harukazu Okuda

1984年 物質工学専攻 修了
佐々木慎一 研究室

1959年 福井県生まれ
武生高専 卒業

1984年 日信化学工業株式会社 入社
2020年 同社 理事 研究所長
現在 同社 研究フェロー

今思うと、第1期の1年次生として入学した1978年春の開校当時。乗合いバスの車窓から遠くに連なる校舎をぼんやりと眺めながら、段々と近づくにつれ見えてきた、まだ赤土の地肌が生々しい斜面が技科大キャンパスの景観の一部として目に焼き付いたのは私だけだったのでしょうか。多分、当時3年次生及び1年次生と一緒に入学された皆さんの殆どは、当時のあの景観を懐かしく思い出されているのではないのでしょうか。キャンパス内に建ち並ぶ校舎は、一般基礎科目や専門科目の履修、及び実験を行うに当たって最低限必要な建屋・設備しかなく、まだまだ増設工事が並行して進められている中、日に日に見えてくる新しい建屋の豪壮さに心わくわくしていた当時から今でも覚えています。そういった意味では在学当時学会などで訪れた他大学のキャンパスを見ても、不思議と羨ましくは思いませんでした。それだけ、技科大を創り上げたいという学び生としての野望が少しはあったのでしょうか。その後、まあ順調に進級し、学部4年修士2年の計6年を経て、1984年に今の会社に入社致しました。大学では、化学情報学の研究室で卒論修論をまとめたのですが、会社に入ってからには主にエマルジョン重合による製品の開発に従事してきました。今年、入社40年になりますが、これまで幾つかの化学プラントを設計し苦勞して立ち上げてきましたが、常に後悔するのは、在学時は他の研究室や他の課程の方々と交流できるチャンスがあった訳ですから、機械工学や化学工学などを野心を持って学び、それを有効に活用できていたらという思いです。在学中の皆さん。知見知識を得る環境がキャンパス内の近場に整っていますので、感受性豊かに掴み取っていきながら悔いのない有意義な学生生活を送ってください。



橋本 佳典

Yoshinori Hashimoto

2009年 建設工学専攻 修士
松島史郎 研究室

1985年 滋賀県生まれ
岐阜高専 卒業

2009年 株式会社東日本建築設計事務所 入社
2016年 エイトデザイン株式会社
現在 同社 企画室室長

技科大修了後は、「院卒じゃないと入れなような大手を経験する」というギャツとした理由で、JRE設計に入社しました。得たものは、マニアックな建築法規知識と鉄骨造の設計力、そして一級建築士という資格。

次は、「大手とは真逆の経験値を」と考え、エイトデザインという中小企業に転職。特に「時流を読み解き、先行優位性をいかにつくるか」という戦略思考は、自分の考えの幅を大きく広げてくれました。得たものは、独自のプランニング手法とスピードスケッチ。ここで考えたことが、そのまま会社の業務を「こなす」人間になるのはまずいということ。なぜなら、設計ができる建築士は世の中に大勢存在し、そして次第にAIに代替えされるという危機感からです。

そこで次は、会社の中で新しい部署を立ち上げました。名前は「企画室」。戦略を組むだけの人は居る、建物をつくるだけの人も居る、でもその戦略を建物に落とし込める人がいない。なぜなら、それらが分野としてそもそも別物だからです。そこに特化した部隊を作った結果、担当施設の前年度売上比大幅UPという実績もつてきました。ここで得たものは、戦略思考と企画力。

そして今現在、次に必要なものが、マーケティング力と運営力。これが身につけば、経営戦略からプランニングそして運用まで、一気通関で組み立てることができ。そのために1番手取り早いのが、会社を経営すること。

現在8LANDというプロジェクトを社内で立ち上げ、独立させる準備をしています。AIに代替えされない、変えの効かない技術者になるために、自身の価値を磨いております。簡単ですが何かの参考になれば幸いです。



家田 諭

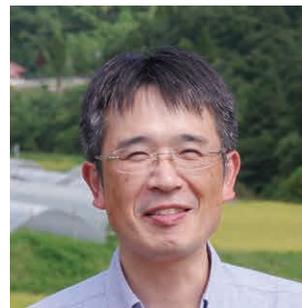
Satoru Ieta

1995年 建設工学専攻 修士
草間晴幸 研究室

1970年 愛知県生まれ
豊田高専 卒業

1995年 芝浦工業大学大学院 研究生
1996年 芝浦工業大学大学院工学研究科 地域環境システム専攻
2002年 大正大学 非常勤講師
芝浦工業大学 非常勤講師
2004年 愛知産業大学通信教育部 非常勤講師
2005年 愛知産業大学通信教育部 専任講師
2009年 愛知産業大学通信教育部 准教授
現在に至る

豊田高専を卒業後、1991年に本学の3年次へ編入学いたしました。高専でも寮生活で親元を離れていましたが、同じ愛知県内とはいえ更に遠くに行くことで親には心配かけ通してました。学部3年4年の時には寮、大学院では寮がなかったので初めての下宿生活でしたが大学院2年の時、丁度大学院生用の寮が完成したのでそちらでお世話になりました。その寮で朝食を摂っている時に、後に阪神大震災と呼ばれる大地震を震源から遠く離れたそこで体験したことを鮮明に覚えています。建設工学専攻に在籍した身としては関心を持たざるを得ないことでした。親戚もその渦中におりましたし、後に職場でお会いした方から被災経験を聞かせていただいたこともあり。その後も皆様ご存知の通り様々な地で震災や台風、豪雨などの天災もあります。現在私は愛知産業大学の通信教育部で教鞭を取らせていただいておりますが、教室は全国各地にあり、教室へ行くために新幹線や飛行機で飛び回る日常です。そうした中で、「大雨の土砂崩れがようやく復旧しました」「新幹線が運休」などメディアの報道ではなく現地に居合わせることも少なくありません。反対に全国各地にいる学生の方々がそうした災害で大学に来られなくなるという事態を目の当たりにすることもあります。さて教育者として研究者としての立場から、日々多くのことを考えさせられます。より良い建築の学びとは？学びやすさとは？そもそも建築を学びたくなる動機づけやきっかけづくりとは？全国を飛び回りながら、各地の学生と話をしながらもこちらが学びが多々あることに気付かされます。このベースにあるのが技科大での学びと交流にある気がしております。在学時には気がつきもしなかったことが恥ずかしい限りですが、感謝の念で一杯です。



細田 智久

Tomohisa Hosoda

1999年 建設工学専攻 修士
渡邊昭彦 研究室

1974年 島根県生まれ
米子高専 卒業

1999年 伊藤建築設計事務所(名古屋) 入社
2000年 豊橋技科大 助手/助教
2009年 米子高専 講師/准教授
2018年 島根大学 教授
現在に至る

島根大学総合理工学部建築デザイン学科に勤務し、専門は建築計画です。豊橋技科大で1学年下の妻(建設工学専攻修士・三宅醇研究室)も島根大学施設整備課に勤務しています。

研究室の取組みとして、地域住民組織・出雲市役所・県庁・県立大学と協働した「空き家を改修活用した学生用シェアハウス」の取組みが「デザイン白書2024(経産省監修)」において県を代表するデザインプロジェクトとして掲載されました。また、少子高齢化・人口減少の先進地である山陰地方、特に山間地域自治体が取組む公共施設の再編・集約化、集落での暮らしの維持に向けた取組みについて、学生たちと一緒に現地を歩きながら研究を進めています。

豊橋技科大には12.5年(学生4+教員8.5)在籍し、多くの先生から専門知識に加えて教育・研究者としての前向きな姿勢も学びました。学生時代を振り返ると、当時は建築設計事務所の意匠設計者を目指して大規模建築デザインに注目し、島根の実家周辺の暮らし・生業・文化には全く興味がありませんでした。それから四半世紀が経ち、経済成長期から人口減社会へ、新築から改修へ、国産木材活用へトレンドが移り変わると共に、私自身も年齢を重ねたことで、中山間地域の価値や魅力、根付いた地域生活とそれを支える建築群への関心を深めてきました。山林・水田・小川のある中山間地域で過ごした原風景、その後学んだ建築土木、現在学生たちと学び続けている地域での取組みが大きな流れとなって自分を特徴付けてくれていると実感しています。技科大で学ばれている後輩の皆さんにも、過去の経験、今学ばれていること、将来への希望と柔軟な姿勢を大切に、大きく羽ばたいていただきたいと思います。



嶋村 泰輝

Yasuteru Shimamura

1987年 建設工学専攻 修士
瀬口哲夫 研究室

1961年 石川県生まれ
石川高専 卒業

1987年 株式会社アールアイエー 入社
1994年 一級建築士事務所
アトリエBAu 設立

現在 同事務所 代表

今年、私の故郷の石川県能登地方で地震による大災害が起きた。私はその時、東京にいたのだが、同郷の諸先輩や友人のことなど心配ばかりの正月だった。思えば神戸の大震災以降、大きな災害が毎年のように起きているように思う。その度に復興の言葉として「がんばろう〇〇」を耳にする。だが、自分が何もできない存在で、なんとも遠巻きにしかいない自らの無力さに、自分と自分の設計した建築は一体なんなんだろうと思ってしまう。とは言っても、メシを食うためには金を稼ぎ、なんとか生きてゆかないといけな。自分にできることは、「普通の家族の普通の住宅設計」と「古い建物の耐震補強や修繕」など「地図に残らない仕事」。頼まれた仕事を日々こなし、わがままにも嫌だと思った仕事を平気で断って、本当に身勝手ながら、夫婦二人の小さな設計事務所を営んでいる。こんな短気な自分がいけないのだが、なぜか不思議と諸先輩や友人やご近所さんなどの紹介で、20年以上も仕事が途切れることもなく続いている。本当に「普通」という言葉がお似合いの、楽しい設計を続けさせていただき、こんなにクライアントに恵まれた設計屋の人生って、結構いいもんだと還暦を過ぎて思うのである。

<https://a-bau38804.jimdo.com/>



写真: 椎岡ヶ谷 (有形登録文化財)